

nichtöne

CHARLES DE KAUF ETOILE

生と死の全体性としての生命世界の形成

編・文 桐村里紗（天籟）

プラネタリー・ヘルス
田んぼDAO

医食農源

農食歯医連携～アグリデントメディスン

鳥取県江府町産
特別栽培きぬむすめ

美味しい新米ができました



WEBサイト

2025
phase0



GDPでは測れない豊かな生命圏

人口最小・GDP最下位の鳥取県の人口最小の町・江府町から始める

風土という私の喪失

稻作は、日本古来の伝統、文化、自然信仰、嘗みを支えながら、多様な生き物を育む生命の根源です。かつての里山は、人と自然が混ざり合う間の場として機能し、人が生きることで豊かな山を守り、育んできました。

食は、私たちの生命の根源であり、同時に、食べることを通して、外側の環境にいる生き物たちの命を自らの内側の環境に取り込み、身体化し、生と死、外と内が重なり合い、人を自然の摂理の一部とする日常の行為です。

しかし、戦後。

私たちの食、文化、信仰等の一切が、土地と分断され、暮らしの一切が、気候風土とは無関係に大規模工業化され、規格化、平均化されていきました。風土そのものであった私たちは、そのアイデンティティを失ったのです。

かつて、百姓たちは、

自分の身の回りの食べ物や家、生活に使うあらゆるものを見つける自然からのいただき、生きていました。身の回りの環境を観察し、手を入れ、そこから生産しながら、その環境を人にとっても、生き物にとってもより良くする知恵を持っていました。

嘗みと切り離された現代の私たちは、自分たちの命を生かすための食べ物を作ることができなくなり、それらを産業に携わる人に任せ、農村を離れ、都市のビルの中で働くようになりました。農も食も、嘗みを離れ、工業化され、それによって、自然環境も、社会も、人も病気になっていきました。金融資本主義の外側にある価値は評価されず、GDPで評価できない豊かさを持つ地方は、衰退していきました。

天籟株式会社は、2022年11月に

人口最小・GDPも最下位の鳥取県の人口最小の町江府町に拠点も住居も移し、豊かな大山に抱かれるこの町と連携協定を結び、人を含む地球全体を健全にする国際目標「プラネタリーヘルス」の実現を掲げ、動き始めました。

大山の豊かな水が生命を育む日野川流域を1つの生命圏と捉え、自然資本から生態系サービスとしてもたらされる健康や心の豊かさ、生物多様性、水の涵養、文化などの多面的な価値を「GNP (Gross Natural Products : 自然総生産) として評価することで、地球再生型流域経済圏の基盤をつくることを掲げています。

田んぼは、その核になると考えています。

プラネタリー・ヘルス 田んぼDAO

自律分散組織のしくみを使った国内初の実証実験スタート

鳥取県江府町の棚田にて、医師や看護師らが田んぼに入る。

田んぼを通して、流域と一体となりながら、

汗を流す作業によって生まれるのは、米だけではない。

田んぼが生み出してきた、たくさんの豊かさに気づいていく。



田んぼという自然資本

田んぼの価値は、米の生産だけにとどまりません。田んぼは、山川里海につながる流域全体の健全性にとって欠かせない存在です。

田んぼは、水を涵養しながらたくさんの生き物を育み、豊かな環境を守ります。米を食べることは、心身の健康を育むだけでなく、人を風土と一体とする重要な営みです。

さらに、稻作は、古来から日本の精神性や自然観の中心にあり、自然生態系と社会生態系を結びます。

田んぼDAOでは、こうした多面的価値を高める再生行為を評価し、NFT認証とトーケン発行を行います。

今年は、分からぬから、まずやってみよう！という段階です。

米価はまだまだ安い

地域の米農家が高齢化によって田んぼの維持ができなくなりつつある江府町。米農業志望で移住した40代の松ちゃん（松本良史さん）が、今は地域農業の重要な担い手です。昨年よりも多く、14町歩（ヘクタール）を担い、作業時間が300時間を超える月もあるほどだといいます。ギリギリの状況で何とか田畠や重要な水路が荒れないようにと奮闘しています。米農家の働きは、田畠だけでなく里山全体の機能を維持し、流域を守ること。米価が高くなつたと言われますが、その仕事量と役割を考えると「まだまだ米価は安い」というのが、本音です。地域や農家の現実を変えるためには、イベントごとではなく、本気で動く必要があることを実感しました。

薬から田んぼの処方へ

人と地球の健康「プラネタリー・ヘルス」を実現するために、「薬を処方する代わりに、田んぼを処方する」ことに興味がある、医師、歯科医師、看護師が中心メンバーとして参画した第1回目の田んぼDAOは、松ちゃんの管理する田んぼで、田植え、稻刈り、耕耘などをしていました。実際の農家の現状を知ることも今回の大きな目的の一つ。

手植え、手刈りに加え、田植え機の操縦の難しさを体験しながら、美しい機械操縦であつという間に植えていく松ちゃん師匠の技を目の当たりにして、大規模な面積を担う農家にとって、機械の必要性を痛感しました。でも、機械は本体も維持費が高い！だから、米価は安い！

プラネタリーヘルス田んぼDAOは、分散型自律組織の仕組みを活用して、メンバーが、リビングラボとなる25アールの田んぼの収穫見込みの米を事前に購入することで、米の出来に関わらず、農家の安定収入につなげると同時に、田んぼへの関与権を購入して、農作業のみならず、自然資本としての田んぼの価値を最大化するプロジェクトです。

活動地：鳥取県江府町 宮市集落
期間：2025年5月～10月
主催：天籟株式会社
協力：農事法人宮市／江府町



令和7年度は、来年度からの本格的な運用のためのphase 0となる実証実験として実施しました。稻刈りはイベントとし、宮市集落の方々にお世話になり、日常の管理は、農事組合法人の松ちゃんが行い、メンバーは、作業をサポートすると共に、生産物としての米の分配のみならず、専門分野を活かしながら、廃棄されるはずの糲殻や雑草等の未利用資源のアップサイクルや農作業に関わることによるヘルスケア効果、農薬や化学肥料を低減した栽培による生物多様性への貢献などのインパクトを評価し、自らの関与する田んぼの価値を高めることを目指します。

手植えの指導には、農事組合法人の松ちゃんの師匠である御年80歳を超える河上名人が担って下さいました。



高齢化と施設の老朽化で、河上名人の奥様が作ってきた宮市の味噌がもう作れなくなってしまいました。貴重な貴重な最後の味噌を、田植えイベントの際に宮市のお母さんたちが味噌汁にして美味しいおむすびと一緒にご提供頂きました。ごちそうさまでした。

メンバーシップ NFT

田んぼDAOメンバーに発行
されるメンバーシップNFT



リワードトークン nichtöne



江府町に足を運び、身体を使って再生活動で貢献したことを見証するリワードトークン「nichtöne(ニッヒトーネ:NT)」ベートーヴェンの第九の歌詞に由来する。

「こんな音ではない！」というベートーヴェンの叫びを通して、「こんな世界ではない！もっと美しい世界があるはずだ！」というこの世界へのアンチテーゼの意を持つ。

RESULT

田んぼから生まれたインパクト

米の収穫量と食味値



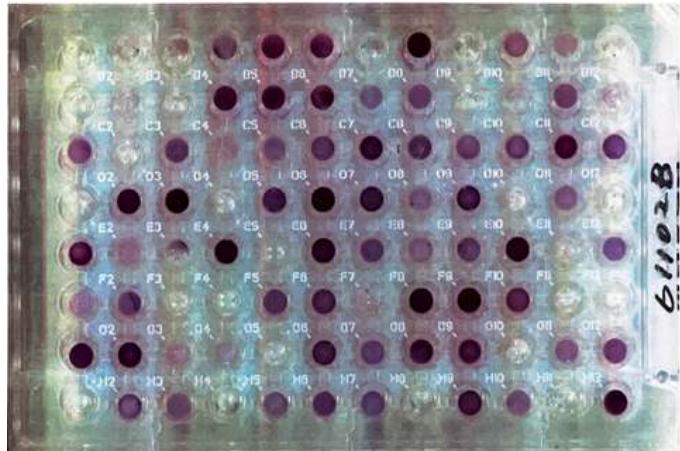
2.5反の田んぼに対して、
当初の予測より多く、約1400kgの収量
がありました。松ちゃんも「とてもいい
出来」という特別栽培米キヌムスメ。
新米を早速炊いてみんなで食しました。
「美味すぎる！」同一栽培条件の隣接田
んぼで、食味値は「85」タンパク含有量
6.5%水分14.5%アミロース含有量18.1%
脂肪酸度15。「非常に良い」と評価され
ました。

トーケン獲得No.1

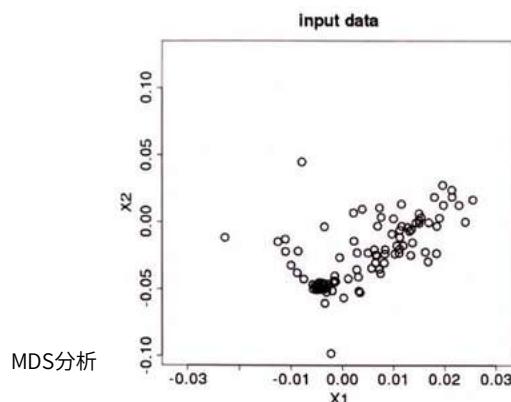


田植え、稻刈り、糲摺りだけでなく、草
刈りや水路整備にも貢献したナベちゃん
が、参加者のうち現時点でのnithöne長
者。合計で13NTを獲得しました。
2位は、クリエイティブな発想で、米の保
管装置を作り出した西河潤先生で4NTで
す。今後、NFT認証、トーケン保有者限
定の特別なマーケットを開拓する展望で
す。

土壤分析



626.418



DGCテクノロジーズに分析依頼し、
田植え前に土壤微生物多様性活性(BIO
TREX)を測定しました。

土壤微生物多様性・活性値 626.4
18(偏差値:45.7)

田んぼは前年度まで農薬化学肥料を使う
慣行農法で、今年から有機肥料と減農薬
の特別栽培に切り替えました。

田植えする前の初期状態の分析のため、
前年度を反映して多様性活性や偏差値
は、慣行農法の平均的な値でした。しかし、
MDS分析においては、「健康な土壤」
に近い分布がみられ、大山の黒ぼく土の
元々の土壤微生物のポテンシャルが高い
土地であることが分かり、伸び代があり
ます。有機肥料への切り替えは、多様性
活性を上げる見込みです。

※同条件で測る必要があるため、事後は測定していません。

1人の移住者が与えるインパクト

医師家族と看護師の移住



看護師で農業経験ももつナベちゃんは、田植えから2ヶ月で江府町に移住し、地域おこし協力隊として地域の仲間に加わった労働者です。

早速、町の伝統的な祭り「江尾十七夜」では人手不足の商工会青年部の山車を引くなど、若いエネルギーを循環させて、地域に生命力を吹き込んでくれています。正式な田んぼDAOメンバー20名中1名の移住者が生まれました。

子供たちへの波及



看護師資格を持ち、子供たちの自然教育経験をもつナベちゃんがせせらぎ公園にいることで、子どもたちが放課後に川遊びができるようになりました。せせらぎ公園まで来る近道は、崖崩れで封鎖されているため、遊びに来るには見通しの悪い道を上って来なければなりません。そこで、せせらぎ公園までバスを出してくれるよう、子供たちが町長に要望書を提出しました。町長の快諾により、今後、マイクロバスの稼働が実現することになりました。

関係人口

35



ナベちゃんの移住をきっかけに、新規で江府町を訪れた人は、**4ヶ月で20名**。元々、江府町に訪れていたが関係が深まった人を合わせると**35名**。住み込みで、プラネタリーヘルスの拠点の活動をサポートしてくれ、二地域居住や移住を予定している人は**6名+1ファミリー**。1人の移住者をきっかけに、新たな生態系が生まれ、拡張しています。

「友達と一緒に遊びたい」

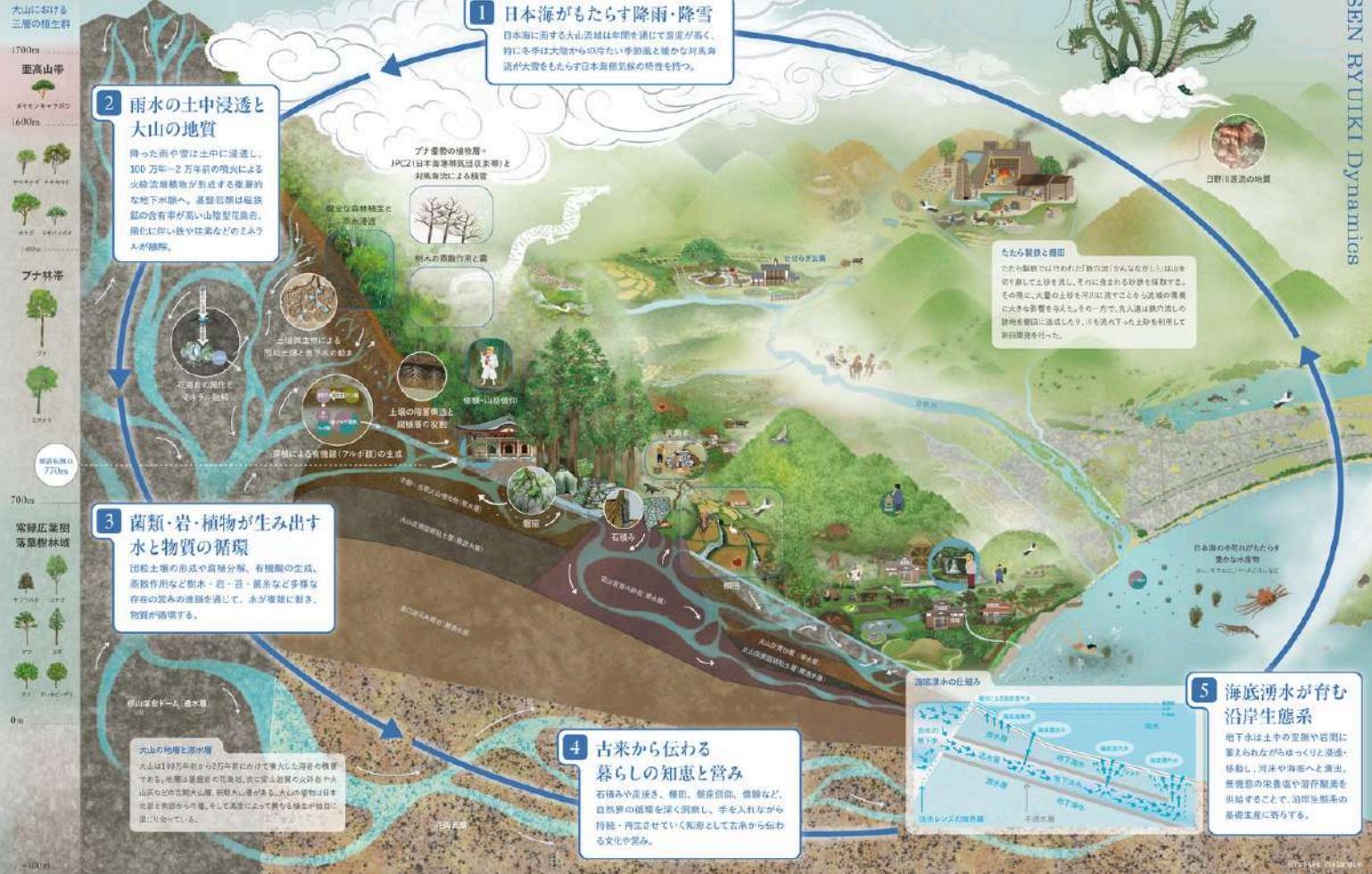
公園までのバス運行
江府の小学生、町長に要望



白石町長に要望書を手渡す子どもたち＝
2日、江府町役場

これらの効果は、ナベちゃんが現場に居てくれることで、関わりシロができたことによって起きたものです。江府町は、快適な宿泊場所が不十分、空き家があるものの出てこないなど、関係人口を増やし、二地域居住や移住を促進するにはまだやることはたくさんありますが、「二地域居住」担当の地域おこし協力隊として8月から精力的に活動しているナベちゃんの奮闘によって、これから大きなインパクトに発展していくだろうと期待しています。

大山流域動態図



奥大山文化協議会 製作：Ecological Memes

流域とは、ただの水の流れにあらず。

天に地に地表に地下に、あらゆる状態に自在に変幻する水と
それを育む気候風土、多様な生態系、
そしてその中で生きる人の営みを含めた
動的に流れ続いている全体性である。

流域動態感受性と視座

この全体性を感受する「流域動態感受性」を取り戻すことで、流域全体のダイナミズムを身体化することができます。

田んぼで稲作を行うことは、その田んぼの局所で米を生産することではなく、大山さんという山が育む流域全体の生命活動、火山によってできた地形や黒ボクの土、そして太陽や月といった天体の活動といった、宇宙、地球、流域のダイナミズム、そしてそこに生きてきたご先祖さま、仏様、土地で信仰してきた神様を大切にしてきた人の営み、文化などの全てが積層している行為です。

田んぼに関わり、そして米を食べる行為は、その積層を自分に重ねること。

田んぼは、人と流域の結節点になります。こうした視座を獲得することが、この世界の人と地球の病理を解決する最も大切な変容だと考えています。



龍神の杜

失われた水源を再生し、龍神のすまう杜に戻す



町営のせせらぎ公園には、古来から集落の人が大切にしてきた水源がありました。

地下に埋まり、ヤブ化してしまった水源の再生を2023年から江府町とスタートしました。

豊かな森林があるからこそ、水は地下深くに浸透し、岩のミネラルがたっぷり溶けた湧水が田んぼの稻を育みます。流域の中に、田んぼがあり、米が育ち、人が育まれる。だから、田んぼを守るには、水を育む環境を守ることが大切。田んぼDAOメンバーは、水源再生も必須科目として実践します。田植えをした翌日に、水源に植林をしました。

指導してくれたのは「ええね」が口グセの乗松造園・ノリさん。そして、プラネタリー・ヘルスドクターズの中で、最もマキタを使いこなす環境再生ドクター石黒。

「ドングリの直根は、人の脊髄だから、切っちゃダメ」医師の目線と庭師の目線が重なり合い、人のケアと地球のケアは同じなのだとということをわかりやすく伝える名コンビの解説を聴きながら、「土地おこし」しました。



作業の合間の昼食は、江尾集落の本町4丁目のご婦人方の愛情たっぷりのおむすび弁当と、親分の獅子汁。いつも美味しいお昼をありがとうございます！



DR.西河潤の体験レポート



大阪で内科や統合医療のクリニックをしています、西河潤と申します。

2025年10月12日（日）、13日（祝）と、夫婦で鳥取県日野郡江府町に伺いました。地元の方のお宅に1泊泊めて頂き、お米の収穫体験やプラネタリーヘルスにまつわる自然再生活動への参加、協生菜園の体験などで非常に充実した2日間を過ごさせて頂きました。

私たち夫婦にとって幸せに満たされて思い出に残る2日間となりましたので、日記のような体験レポートとなります。が共有させて頂きたいと思います。

DAY1 2025.10.12

今年の5月に夫婦で初めてプロジェクトに参加すべく、江府町を訪問させて頂きました。その際は地元の方々に盛大かつ温かく迎えられる中で、プラネタリーヘルスや土中環境の再生について学ばせて頂いたり、田植えをしたり、せせらぎ公園で自然環境再生の一環としてマウンドに植林をさせて頂くなどの充実した機会を得ました。今回はその続きとなる訪問でした。

さて、久々に足を踏み入れたせせらぎ公園では、5ヶ月前に乗松さんや石黒先生の指導を受けながらマウンドに植林した木々が伸びてきており、嬉しく思いました。その場所で今回は雑草を適度に刈り取ったり、どんぐりを植えるなどの整備を行いました。その最中、御神木の前のマウンドの斜面に植えてあった木が横倒しになっているのに気づきました。

そこを土中環境再生に詳しい大庭さんと一緒に土に枯れ枝を刺したり落ち葉をしっかりと詰めたりして建て直させてもらったのがとてもよい学びとなりました。植林の際の落ち葉はしっかりと詰めてあげないと、後でスカスカになってしまいりますね。御神木のドングリの木からパラパラと頭や背にドングリが落ちてきて、それはまるで「子供たちをよろしくね。」と私たちに伝えてきているかのようでした。





手刈りは、しめ縄用にするために、手植えをしたうちの先頭の1列だけさせて頂きまして、残りは農家の松ちゃんさんのお世話になりました。

松ちゃんから農家の実情を伺いました。近隣の耕作できなくなった農家さんの農地を一手に引き受けているので、1人で14丁もの田畠を担当されているそうです。今回の田んぼでも2.5反で大きいのに、その56倍！！目ん玉が飛び出ました。月労働300時間越え。ありえない仕事量です。それから、農地内のことより、その外のことの方が大変なんですね。



『里山管理人』という名前の職業を広めていくのがいい、という話があがりました。大賛成です。私の意見では、不動産屋や移住のサポートの仕方も大事であると思います。売主が古民家だけでなく農地や山林も手放したいとき、大体の不動産屋は農地や山林は扱わず、古民家だけを物件として切り離して販売してしまうのです。なぜなら、農地を取得するには農地法第3条という条件や農業委員会の審査を通す必要がありますし、山林は大抵境界が不明確ですから。そんな面倒な作業を不動産屋は嫌うわけです。でも、できれば不動産屋には、それらを里山暮らしセットとして販売してサポートしてもらいたいです。丹波篠山のKGG不動産はそれをやってくれるので、農地や山林まで付いてきます。そのやり方の不動産屋が増えれば、購入者は自然と循環する里山暮らしを行いやすいですし、魅力も爆上がりになるので移住者が増えると思います。仮に住居を借りる形で移住してくる場合でも、地元の十分なサポートがあって、里山の管理を先達から学びつつ、豊かな里山生活を送られるような形があれば、移住場所としての魅力は非常に高くなるのではと思います。

自然に囲まれた中で参加者たちで羽釜でご飯を炊いて、協生農法で育ったエゴマの葉や手作りのお味噌や味噌汁を頂きまして、とても美味しかったです！こういう食事は心をとても豊かにしてくれますね。

メインとなるイベントは、前回手植えをした棚田のお米の収穫です。久々に訪問した2.5反もの広い田んぼには、びっしりと稲穂と米が実っている光景が広がっていて、圧巻でした！私たちが拙くも手植えした苗もきちんと生着し、分けつしてお米が実っていたことにも感動しました！



それは、水路です。移住したなべちゃんがどぶさらいをしてくれたのは、大変助かることだったようです。昔に補助整備をしたU字溝も隙間が空いて水が溝から漏れたり、山から直線的に速く水が流れるため、山の土も流れてきたり、溝の側面に土と雑草が生えてその泥が堆積したり。そういう水路の管理が大変ですし、重要であるとのこと。田んぼをやるからには、水路管理にも関わらないといけないですね。農家は農地を耕すだけではなく、水路も裏山も水源も含めて、里山を管理する必要があるのですね。



1日目の夜、せせらぎ公園の建物内で皆さんと頂いた晩御飯もとても愉快な時間でした。ナベちゃんがきのこ名人と山で採ってきたキノコの入った炊き込みご飯、鹿肉入りの鍋、協生農法の野菜のアラカルトなど、豊かな食卓でした。商工会長さんがふるまってくださった大山の貴重なしぶりの大吟醸で、私はすっかり酔っ払ってしまいました。

私たち夫婦は商工会長ご夫妻の邸宅に泊めて頂きました。私の家の庭で採れたすだちを籠に入れてお渡ししたら、なんとその籠にとても大きな鬼太郎柿が入れられて返ってきました。寝室はベッドの洋室か畳かを選ばせてください、タオルも用意してくださって。お風呂も気持ちよかったです。大変なおもてなしをして頂きました。そうやって1日目は満たされて眠りについたのでした。

DAY2 2025.10.13

かなりぐっすりと眠ってしまいまして、翌朝はゆっくりとした朝を迎えました。

リビングに向かい、コーヒーを用意してくださる、とのこと。私たち夫婦はコーヒー好きですので、とても嬉しいサービスです。

日本庭園の見える、桜の木で作られた縁側に案内されまして、そこで美味しいコーヒーを頂きました。朝になって縁側からよく見えるそのお庭は、大変豪華な日本庭園でした。しかし、決して華美ではなく、余白がある侘び寂びの風景に、心の隙間が満たされていくのを感じました。私の妻と商工会長さんで、家庭菜園やバラ好きであることなど、共通の趣味があって話が盛り上りました。ご夫妻は本当によいお人柄でした。帰り際には、商工会長さんがされているブルーベリー農園で作ったワインまで頂いてしまいました。至れり尽くせりで本当に豊かでリラックスできるおもてなしを堪能しました。

名残り惜しい中、車でせせらぎ公園へ向かうと、里紗さんやなべちゃん、大庭さんたちが朝食を用意してくれていました！自家製味噌やお味噌汁、やっぱり美味しいです。

その後、大阪の田中善先生や赤穂からの三宅孝充先生とご家族や、東京からの女性の歯科医の恩地恵子先生も加わりました。

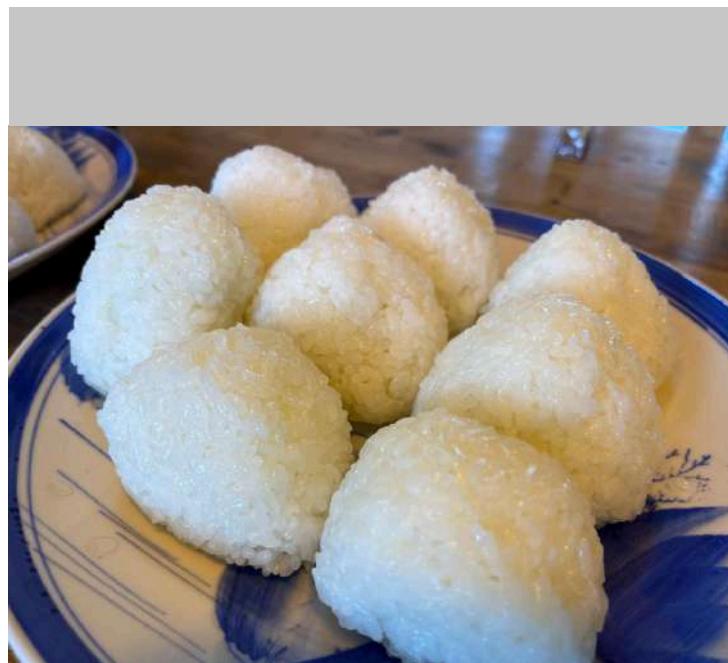


ライスセンターで糀摺りの順番を待っている間、稻藁を使って、しめ縄作りです。

しめ縄作りは以前自分で挑戦したことがあるのですが、うまく作れませんでした。それは、きちんと事前の手順を踏んでいなかったことがわかりました。まずは水で湿らせた稻藁を手で曲げて柔らかくした後、ツチでリズミカルに叩きます。そして、12本の稻藁を手に取り、半々に分けて、足と手をうまく使ってしめ縄を縫（な）っていきます。縫うときの手を動かす方向や、稻藁に対する手の位置などがおかしくて当初はうまく縫えませんでしたが、コツをつかんでからはきちんとできるようになりました！大人でも成長することができる、ということを感じて嬉しかったですね。同じしめ縄を二つ作って、私はそこで一旦作業を中断したのですが、帰ってきたら妻が綺麗に龍の形に仕上げてくれっていました。

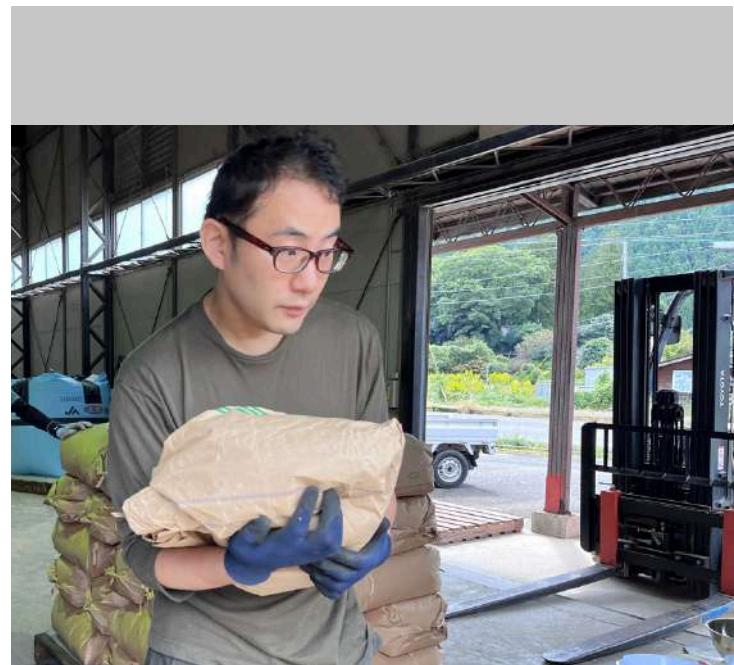
これはクリニックに飾ろうと思います。

さて、この日一番の仕事は、ライスセンターで糊摺りと選別が完了したお米を頂いてくることです。里紗先生に運転してもらってミニライスセンターに伺うと、お米が袋詰めされていました。そのお米は、ものすごい量でした！30キロの玄米の袋が36個（つまり1080キロ=1.08トン）、それから糊殻のついた20KGの袋が20個。糊殻付きのお米20キロ分は糊殻を除くと約8割の重量となりますので、約16キロと考えるとそれが20個で320キロです。併せて1400キロ、つまり1.4トン分ものお米が収穫できてしまいました！令和の米騒動が起こっている昨今、この量の収穫はものすごいですね。この豊作は有り難いことです。お米の回収には3台で向かいましたが、1回では回収しきれず、2往復しました。



今回、農家さんや参加されたみなさんと一緒に収穫した貴重なお米はニッヒテーネ米として桐村一平さんにラベルを貼って頂きまして、私たちは5月に事前にお米代もお支払いしていましたので、有り難いことに2袋、大阪に持ち帰らせて頂きました。1泊2日の江府町体験はかくも豊かに私たちの心を満たしてくれたのでした。

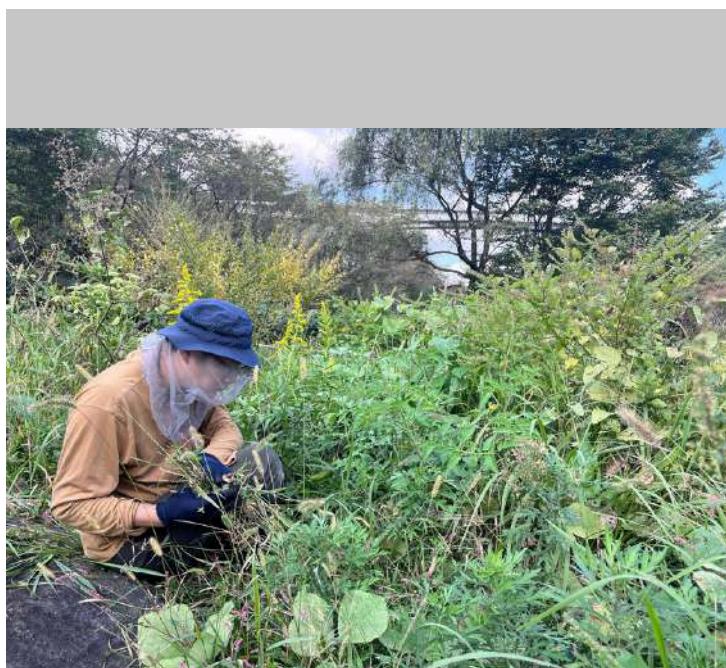
桐村ご夫妻、商工会長さんご夫妻、なべちゃんや大庭さんらプラネタリーナースさんたち、合流してくださったプラネタリードクターたち、農家のまっちゃん、協力隊の方、そして江府町と大山さん、本当にありがとうございました。



せせらぎ公園に帰ってきたら、収穫したてホヤホヤの新米の塩握りを作ってくれました。一平さんと頂いたところ、本当に美味しいー！粒がしっかりして、エネルギーがしっかり詰まっています。私たちはともすればお金を払えば自動的にお米やご飯を買えるようになっています。しかし、その裏では、こんなに農家さんが手間暇をかけて、天地の恵みをしっかり受けて育ったからこそ、私たちはお米やご飯を頂けているんですね。現代ではお金で食べ物を簡単に買うことができるようになった一方で、消費者が生産の現場やプロセスと切り離されています。お米や野菜の生産現場には太陽の光があり、綺麗な水があり、元気な土があり、農家さんたちの愛情があります。そこから切り離されて出来上がった商品だけを買うのは、もったいないことだと感じました。お金でものを簡単に買えるようになった分、私たちは豊かな自然に触れる機会を失ってしまったのでしょうか。



DR.西河潤のエトセトラ



マーケターの一平さんから貴重なお話を伺うことができました。一平さんは、ヒットを研究しておられ、その根底にある『関数』を割り出してストックしておられます。そして、世の中を動かすために、ものすごい精度で分析し、そこに絶妙に合う適切な関数を適用して、結果を出しておられます。それはまるで、見方が変わることでエネルギーも現実も変わり、まるで無から有が生み出されるような感じなのです。これは医療でも本当に重要なこと。視点を変える事で、立ち位置が変わり、見え方が変わり、エネルギーも現実も変わって元気になるんです。

プラネタリーヘルス拠点のせせらぎ公園では、協生菜園の畑にも入らせて頂きました。草を搔き分けると枝豆が顔を出したり、生まれて初めてみる小豆の入った鞘に出会ったり、宝探しみたいでとても楽しかったです。エゴマが至る所になっていて、レモングラスもあり、香りが豊かな場所でした。協生農園の果樹やハーブ、雑草などを混ぜて低音真空蒸留装置で抽出したら、きっと素晴らしい調和と豊かさを持つハーブウォーターができるのだろうなと思いました。また、夏野菜のトマトはこの時期でもまだ緑のものもありました。近頃は夏の暑さに夏野菜もやられがちと言いますが、協生農法ですと強い陽光から隠れられますし、土が過栄養になつてないのでゆっくり育ち、秋まで収穫できていいくですね。



nichtöne

CHARLES DE KAUF ETOILE

一平さんがプラネタリーヘルスで社会を動かすための肝と考えておられるのは、経済、です。そして彼は金融資本のお金とは違う、地球貢献度に応じて貯まる通貨ニッヒテーネを作りました。さらに、粒殻から環境負荷の少ない方法でクリスタルを作って、その通貨でしか買えないようにする、というのです。どんなお金持ちだって、お金では買えない。もしその粒殻クリスタルが世界の有名ブランドとコラボをして、かつ、それはプラネタリーヘルスの活動をしないと買えない、となつたらどうなるでしょうか。どんどん参加する人が増えるはずです。改めて、ものの見方を変えるということ、そして、新しいルールを創造すること、そういうことの重要性を再認識しました。これは医療とも非常につながっている話だと思います。

生と死の全体性として の生命世界の形成

いつしか、私たち人類は、生だけを望むようになった。
技術を駆使して不死をめざす人たちは、どこに向かうのか。
永遠に終わらないことは、本当に美しいのだろうか。

人は、漠然と水が怖いと感じる。
海も、川も、なぜだか怖い。
水は、地球上の生命が微生物だった時代から、
あらゆる命を育む母であると同時に、
荒波や濁流となり、たくさんの命を飲み込んできた。
水への怖れは、同時に
人間では抗えない大いなる力への畏れなのだ。

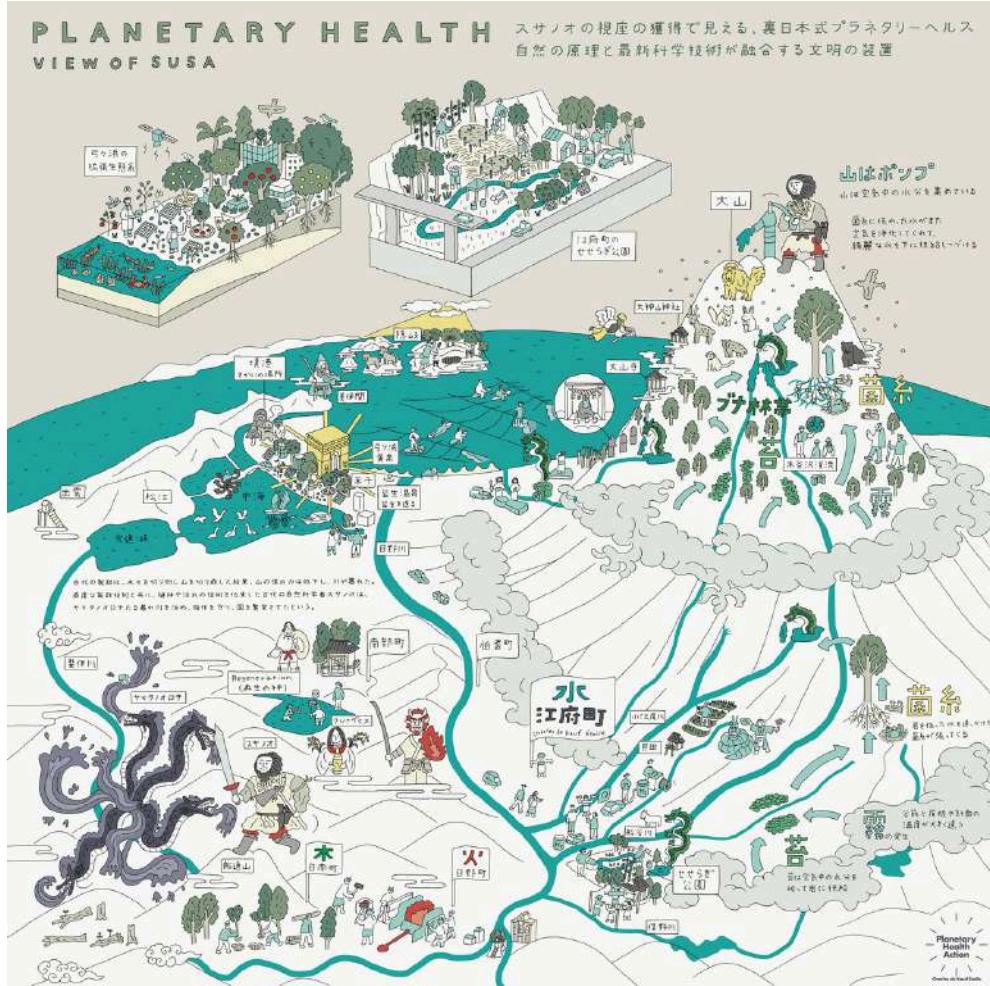
自然界には、いつも生と死が共にある。
あらゆる生き物が、生まれて死んで。
他者の死を喰らい、自らの生にしながら、
今日も貪欲に生きている。
同時に、自らが死ねば、潔くその肉体を差し出し、
たくさんの生き物に生を与える。
ぐるぐると回り続ける生と死は、
普遍のサイクルであり、
命のリズムは、生と死を同時に刻んでいる。
こうした摂理が貫くこの世界で、
命に固着する人間は、果たして幸せだろうか。

私たちは再び、
人間と共にいる沢山の命とリズムを合わせ、
秩序の中に自らをおいてみる。

それは、とても美しい世界。

生と死の全体性としての生命世界の形成。

nichtöne
CHARLES DE KAUF ETOILE



プラネタリーヘルスへの道

プラネタリーヘルス田んぼDAOは、大山流域において
プラネタリーヘルスを実現する基盤となる
金融資本主義では評価されない自然資本に基づく
再生型経済圏を構築するためのきっかけとなるプロジェクトです。

人の変容による経済の変容によって、
GDPに代わる評価軸として自然資本に基づくGNP(自然総生産)を
直交軸とした再生型経済圏の確立を目指します。

今年の実証実験を踏まえ、来年度からは、
より生物多様性を高め、
流域の生態系の健全性を高める農法にチャレンジし、
田んぼDAOメンバーの手で田んぼだけでなく、
田んぼにまつわる周辺環境の整備を行っていきます。

目標は、
2030年 再生型流域経済圏基盤の構築
2050年 人と自然が共生する流域の実現

土に触れ、汗をかきながら、みなさんと一緒に実現していきたいです。



9

nichtöne

CHARLES DE KAUF ETOILE

新
米



鳥取県江府町産
田んぼDAO
特別栽培米きぬむすめ

30kg 35000円 玄米/白米 (送料込み)



[申し込みフォーム](#)

プラネタリーヘルス 田んぼDAOプロジェクト

主催

天籟株式会社
代表取締役社長 桐村一平
代表取締役医師 桐村里紗

〒689-4401 鳥取県日野郡江府町江尾420せせらぎ公園

協力

大山さん
農事組合法人宮市 松本良史
宮市集落の皆さん
本町4丁目の皆さん
江府町役場の皆さん
芦立大和
川端雄勇・勝恵ご夫妻

後援

一般社団法人プラネタリーヘルスイニシアティブ

プラネタリーヘルス田んぼDAOメンバー

渡部祐美子 (DAOメンバー兼地域おこし協力隊)
西河潤 西河絹子
西澤真生 恩地景子
舟木昌美 橋本絃子
飯塚浩 上杉登
石黒伸 (水源再生指導)

稲刈りand田植えサポーター

妹尾翔太
林聖夏
乗松正博 (水源再生指導)
桐原正憲 (Bequadro)
田中善
三宅孝充 三宅由花 あみちゃん
門田表 (地域おこし協力隊)
今岡寛和 (地域おこし協力隊)

田植え来賓

赤沢亮正 (代理 衆議院議員)
野坂道明 (鳥取県議会議員)
柄本義博 (鳥取県農業振興局長)

